

おかやま 河川だより

流域の連携



高梁川流域クリーン一斉行動（倉敷市）



旭川源流の碑運搬（真庭市）



金剛川水辺の楽校子供の夏（和気町）

皆さんこんにちは。昨年1月に創刊した本誌ですが、お楽しみいただいていますでしょうか。毎号テーマを設けて岡山三川の紹介を続けています。創刊号で地域とのコミュニケーションのツールと宣言しましたが、徐々に地域で活動している方々から原稿をお寄せいただけるようにもなりました。

さて、今回のテーマはその「地域の連携」です。川を通じて行われる地域の様々な活動と事務所との連携について紹介します。一年で一番寒い時期を迎えます。でも冬来たりなば、春遠からじ。新しい年、現場で、誌面で皆さんと一層連携を深め、よりよい川づくり、そして地域づくりを目指すべく準備中です。本年もよろしくお祈りします。

この広報紙は、県内市町村の広報コーナー、岡山河川事務所並びに各出張所に置いてあります。また、岡山県内の道の駅及び高速道のサービスエリアにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。



吉井川



旭川



高梁川

岡山河川事務所
国土交通省 中国地方整備局



川は地域の運命的共有物

高梁川流域連盟事務局 浅野 光正

高梁川流域連盟は、初代名誉会長であった大原總一郎が、郷里を流れる川を「運命的共有物」あるいは地域を結び付ける「紐帯」と捉え、昭和29年に創設されました。連盟に加入しているのは高梁川の本流や支流を擁する市町と、高梁川に水源を求める市町合わせて7市3町。特別会員として、趣旨に賛同する法人と個人が連盟の活動を支えています。

連盟では、創立以来続く中学・高校のリレー大会や高等学校音楽会、機関誌『高梁川』の発行のほか、絵画展、フォトコンテスト、クリーン一斉行動などの新しい活動にも取り組んでいます。これらの事業を紹介するため、平成18年度は広報活動にも力を入れ、ホームページの充実やリーフレットを作成しました。

流域連盟では、設立当初の崇高な理念を受け継ぎながら、同じ流域に暮らす市民としての連帯意識が高まるよう事業を推進していきたいと考えています。

高梁川流域連盟の主な行事予定

時 期	行 事 名
2月	- フォトコンテスト
3月	- 絵画展
11月	下旬 高梁川流域クリーン一斉行動

※（事務所の連携活動）11月のクリーン一斉行動に毎年参加しています。今年度は12人参加しました。



（写真提供：高梁川流域連盟事務局）

GREEN DAY — 高梁川との連携 GREEN DAY世話人 大久保憲作

2003年から始めた『GREEN DAY』という社会運動は、この流域の森と水と暮らしを再点検し、森林や水と暮らしの関連を、環境運動やサステナブルな街づくりという視点で捉える運動です。

具体的には流域で活動する団体や個人が一年に一度集結し、互いの主張や運動をアピール、広域の連携や協働のカタチを探ろうというものです。建築関係者、安全な食の生産者、自然エネルギーや子どもの未来を考える団体、自治体など、市民・企業・行政・NPOと地域に欠くことのできない人達が勢揃いします。自治体の枠を越え、川の流域という広いエリアを対象とする運動は特異なものですが、年を追って共感の輪が広がっています。

朝夕に同じ川の流れを見、その同じ川の水を飲んでいるという運命共同体的な感覚が、流域のことは「他人事ではない」という気持ちを生むのでしょう。上流から下流へと水の流れが繋がっているように、流域に住む人の心もまた、繋がっているのだと分かりました。

高梁川という美しい川と共に暮らす幸せを誇りに思い、これからも川のある暮らしの価値を次の世代へ引き継いでいくこと、それが『GREEN DAY』の運動なのです。

ホームページ： <http://www.green-day.jp/>

※（事務所の連携活動）開催時に、毎年ブースを設置して高梁川の流域概要や防災情報、環境情報等について皆さんに学習していただける場を提供しています。



（写真提供：GREEN DAY事務局）

旭川流域が一丸となって

旭川流域連絡協議会

よりよい川づくりのためには、流域が一丸となった取り組みが必要です。このため、平成11年3月に、旭川流域内の市町村と岡山県、岡山河川事務所で構成された「旭川流域連絡協議会」が設立され、河川行政の施策や川を活かした地域づくりなどについての意見交換、情報交換を行っています。

これまでの活動では、流域交流シンポジウムや学習会などの開催、「旭川流域ネットワーク（AR-NET）」が行っている旭川流域一斉水質調査への支援、渇水やコイヘルペス発生時の情報提供など、主に流域内の交流や情報共有などを行って来ました。また、平成15年には、「旭川流域の水防災に関する研究会」を開催し、以後流域が一体となった地域防災力の向上に取り組んでいます。この活動では、流域内の自主防災組織の活性化を目指して、モデル地域での自主防災組織の結成や防災マップづくりなどについての支援を行っています。これまでに、流域内の6地域で活動支援を行っていますが、引き続き流域内の他の地域においてもこの活動を拡大し、災害に強い旭川流域になることを願っています。（佐々木）



第21回旭川流域連絡協議会



旭川流域の水防災に関する研究会

旭川流域ネットワーク（AR-NET）とは

旭川流域ネットワーク 事務局 竹原 和夫

「旭川流域ネットワーク」は、旭川流域の民間団体の情報ネットワークで、通称を「AR-NET」といいます。平成9年の河川法の改正により、河川管理の目的に環境が入り、河川整備に地域の意見が反映されるようになったことを受け、旭川にもっと関心を持ってもらおうと実施した「旭川源流の碑」の建立がきっかけとなって発足しました。

「旭川源流の碑」は、平成9年に川上村の竜王ヶ池に建立され、以後旭川のすべての支流に活動の和を広げようと、毎年1本ずつリヤカーによるリレーで、旭川の河口から源流まで運んで建立しています。10本目となる今年度は、真庭市の旧落合町を3月6日に出発し、11月12日に備中川支流の関川上流にある塩滝公園に建立しました。前日には、旭川源流の碑落合実行委員会、旭川流域連絡協議会と共催で、旭川流域交流シンポジウムも開催しました。

また、平成11年から毎年、旭川流域一斉水質調査も実施しており、旭川流域の河川の水質実態を把握し、旭川流域全体が連携して水質保全に取り組むための活動を行っています。

これらの活動には、岡山河川事務所の職員にも参加してもらっており、今後も連携を図って行くこととしています。



旭川流域交流シンポジウム



10本目の源流の碑建立の様子



吉井川

金剛川をフィールドに未来に残るいい川づくりを目指しています

大田原昭和会 会長 国近 義博

私達は、和気町大田原地区の壮年層 35 名のグループで、今年で、会の発足以来 30 年目を迎えました。子供の頃から私達の遊びの先生になっていた金剛川が地域を流れていて、先輩達は一時少なくなったホタルの保護等もしていました。

平成 8 年からの金剛川大改修にあたり、当時の建設省の協力で多自然型川づくりや、水辺の楽校の整備工事にも設計段階から参画をさせてもらい、子供たちが遊び、自然も回復している素晴らしい川に生まれ変わりました。

この金剛川で毎年『水辺の楽校子供の夏』のイベント、地域の子供たちとのクリーン作戦、盆のしょうろう流し、ホタルの増殖、外来魚の退治釣り大会、イモ煮会、など子供たちをはじめ、地域のみんと年中『なんやかんやの川づくり』を楽しんでいます。また、この様な活動が縁で、吉井川の流域グループの仲間達との交流、旭川の方々、日本全国の川が大好きなグループの友達もたくさん出来て色々な情報の交換も行っています。

未来の子供たちに残す本当にいい川とは何か？ 試行錯誤をしながら『なんやかんやの川づくり』をやっている金剛川に遊びに来て下さい。

※（事務所の連携活動）「水辺の楽校子供の夏」の開催時に、毎年ブースを設置して金剛川に住む魚の展示と、水生生物調査を行ったり、ストーンペインティングや竹細工のコーナーを設けて学習と遊びの場を提供しています。



魚をとろう(水辺の楽校子供の夏)



地元の幼稚園児たちと共にホタルの幼虫を放流
(写真提供：大田原昭和会)

吉井川水系水利用協議会について

吉井川水系の苦田ダムは、平成 17 年 4 月に約半世紀の年月を経て、多くの方々の御協力のもとに完成しました。ダムの完成に伴い、河川水が貴重な資源であり、吉井川流域全体で有効な利用を図る事が大切であるという考えに基づき「吉井川水系水利用協議会」が平成 17 年 6 月 23 日に設立されました。

水利用協議会は、利水者として、農業に携わる方々、飲料水や工業用水として使用される方々と、水を供給する立場のダム管理者、河川を管理する河川管理者とが一体となって、水利用に対する情報共有や意見交換、そして渇水時には取水制限に関する合意形成を図る場として運営されています。

平成 17 年の 6 月渇水では、下流域の方々が農業用水の自主節水をされる中で、苦田ダムは補給を続けました。また、平成 18 年 2 月には、児島湾の栄養塩不足により海苔の色落ちが懸念されたため、岡山県知事からの要請で緊急放流も実施しました。

こうした、ダムの効用が期待される中で、私も苦田ダム建設に携わった一員として、上流と下流の人々が連携し、吉井川流域の水の大切さを考え語り合える場として、協議会の今後の発展を願っています。(三輪)



平成 6 年 7 月 21 日撮影
渇水で瀨切れが発生しており、水生生物の移動が困難になる等、生息環境が極めて悪化しています。

VOICE



おかやま河川だより第4号(一環境一自然を育む)をご覧頂いた方から沢山のご意見、質問をいただきました誠にありがとうございます。

今回は、一部であります質問にお答えいたします。

一環境一自然を育む特集についてのご質問・ご意見



河川敷にゴミを捨てているのをよく見かけますが、どうにかなりませんか？



河川区域内の土地にゴミ・廃棄物等を捨てることは法令で禁止されています。違反した場合は、罰則規定が設けられています。

ゴミ等の不法投棄対策としては、看板を設置したり、市民団体・自治体等の実施する「クリーン作戦」を通じて啓発活動も行っていますが、不法投棄は後を絶たないのが実態です。

また、不法投棄のほとんどが原因者を確認できず、最終的に当事務所が処分していますが、それは皆様の税金が投入されているということになります。

今後もゴミ等の不法投棄を減らす対策を進めていきたいと思っておりますので、皆様のご協力お願いいたします。



岡山三河川でのゴミの処分量

	H13	H14	H15	H16	H17
処分量 (k)	730	480	890	770	707
処分費(万円)	1,730	2,165	1,666	1,338	1,286

* 上記には、自治体や市民団体の活動で収集処分されたゴミ量は含まません。

ご意見

前号の環境での取り組みについて特集したところ、皆さんからたくさんのお便りが寄せられました。そのほとんどが、今後も環境を良くして欲しいとの内容でした。お便りの中には、「環境を良くするためにお互い努力しましょう。」というご意見もありました。

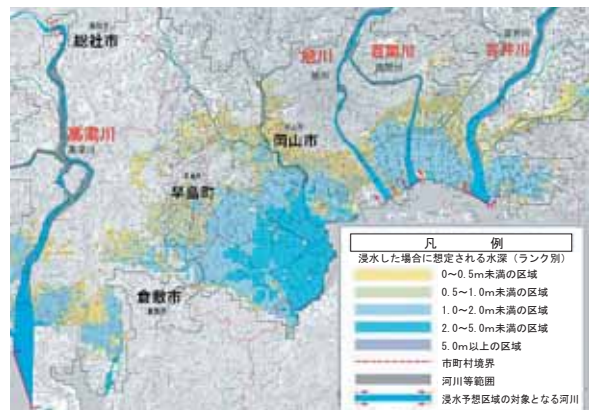
岡山の河川は「おかやま河川だより」第4号で特集したとおり豊かな環境がたくさん残っています。このような環境を残すためには、みなさんにまず現状を知ってもらうことが大切です。国土交通省では、地域や学校に出向いて行う「出前講座」により、みなさんと一緒になって考える機会を今後も増やしていきたいと考えています。「出前講座」に関するお問い合わせがありましたら、岡山河川事務所までご連絡下

ワンポイントレッスン

脆弱な岡山平野 - 広がるゼロメートル地帯

岡山三川下流部に広がるゼロメートル地帯（朔望平均満潮位より地盤の低いところ）は、高潮、地震、津波による災害に対して危険性が非常に高い地域です。岡山平野に広がるゼロメートル地帯の面積は、東京湾・大阪湾の約2倍に相当します。

	被災面積 (h)	被災人口 (万人)
岡山	235	40
東京湾	116	176
伊勢湾	336	90
大阪湾	124	138



トピックス

第19回山陽新聞社杯市民レガッタが開催されました

去る10月15日19回山陽新聞社杯市民レガッタが開催されました。当日は雲一つ無い秋晴れの中、県内外から小学生を含む約80クルーが、1部（50才未満の競技経験者は2名まで漕手参加可）、2部（経験者のみ）に分かれ男女のナックルフォアー（300メートル）を行いました。

ナックルフォアーは漕手4名、舵手1名の計5名でクルーを組み、どのクルーも舵手の「キャッチ、ロー」の掛け声に合わせて、漕手が1人1本のオールを一生懸命漕ぎゴールを目指していました。残念ながら午後からは風が強まり一部のプログラムで変更がありましたが、どのクルーも強風に負けることなく完漕していました。

岡山河川事務所からは昨年に引き続き、百間丸1号（1部：男子ナックルフォアー）、百間丸2号（1部：女子ナックルフォアー）の2クルーが参加し、百間丸1号は予選敗退、百間丸2号については見事準決勝進出！というすばらしい結果を残しました。



第18回沢田柿まつりが開催されました

去る11月19日に沢田柿まつり実行委員会の主催で「第18回沢田柿まつり」が百間川の河川敷で開催されました。当日は雨が降ったり止んだりのあいにくの空模様でしたが、柿の販売コーナーをはじめ食べ歩きコーナーなど各ブースとも人で賑わっていました。

国土交通省のブースでは、近年の雨の降り方や災害などを紹介したパネル展示や旭川・百間川の歴史を説明したパネルにシールを貼ってもらうアンケート形式で認知度の調査を行いました。航空写真を使用したジグソーパズルコーナーでは、友達同士や家族連れの皆さんに楽しみながら空から見た地域の状況を知ってもらうことができました。

また、ステージでは岡山市消防音楽隊や旭川保育園児による演奏、柿の皮むき競争、〇×クイズなど色々な催しが行われ、拍手や歓声が沸き起こっていました。



河川愛護モニター会議を開催しました

国土交通省では、地域にお住まいの方々から、河川の整備や利用又は環境に関するご意見をお聞きし地域と一体となった河川の適正な維持管理に資することや河川愛護の普及を目的とした「河川愛護モニター制度」を実施しています。

去る11月30日に、現在委嘱中の河川愛護モニター（任期H18.7から1年間）の方々6名に集まっていただき河川愛護モニター会議を開催しました。日頃のモニター活動で感じておられる河川に関するゴミ投棄、除草、清掃、利用状況等についての意見・要望を多数いただきました。



みんなの
VOICE



今回「おかやま河川だより」は、流域の連携をテーマとして各地で活動されている団体やその活動を紹介しました。

岡山河川事務所では、地域各地の皆さんと協力し合って、よりよい岡山の川づくり、地域づくりを目指しています。

ぜひ、みなさんもこの機会に流域での活動に参加されてはいかがでしょうか。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
みんなのVOICE係

〒700-0914 岡山県岡山市鹿田町2丁目4番36号
Tel.086-223-5101（代表） Fax.086-222-7835
ホームページ <http://www.okakawa-mlit.go.jp/>